

リポーンバスツアー

「コットン栽培の現場に行ってお手伝いをしたい!!」と言って下さる方はいらっしゃるのですが、残念ながらコロナ禍の中では首都圏からおいでいただくことはかなり難しく、毎年恒例になっていたてんぶらバスでのコットン栽培お手伝いツアー企画も、今年は4月から毎月企画されながら、中止を余儀なくされるということを3ヶ月続けてきました。

しかし、7月にはぜひとも!と願っていたところ、ようやく緊急事態宣言の合間を縫うように、7月3日に実施することが出来ました。受け入れる私たちとしても、待ちに待った来訪ということで、当日は大喜びでのツアー受け入れとなりました。

受け入れ圃場は、遠野町上根本のみいこ畑。永山進さんが管理者の圃場です。行っていただいた作業は、防草シート敷きと支柱立て、草刈りなど。「やっと1年ぶりに帰って来れました!」と、嬉しそうに仰って下さるツアー参加者の皆さん。久しぶりに気持ちのいい空気を胸いっぱい吸い込んでマスクの下の笑顔がこぼれ出ていました。



▲ツアー参加者の皆さんと記念撮影

小学校での栽培チャレンジがスタート

コットンプロジェクトの一環で栽培に今年チャレンジしてくれる高坂小学校児童の皆さんに、プロジェクトの説明をさせていただきました。コロナ禍に負けないというメッセージを載せてライトアップをしたり、支援の学用品をネパールやマイクロネシアの子供たちのために集めたり、活発に活動している高坂小学校児童の皆さん。その皆さんとつながって、壮大なプランが動き出します。

秋の収穫、そして手紡ぎした糸で作るランプシェードでのライトアップまで。楽しいプロジェクトがスタートします。(この活動は福島県県内避難者・帰還者心の復興事業の補助を受けています)



▲コットンの話を聞入る高坂小学校の児童たち

SDGs活動への応援「お米の贈呈」

7月26日、ピープル事務所に地元の金融機関「いわき信用組合」の皆様がお出でになり、フードバンク事業への応援にと、いわき産のお米が贈呈されました。

以前からいわき信用組合小名浜本店には食品回収用のボックスを設置して、私たちの活動を支援して下さいましたが、今回はこれから発売される定期預金と連動するSDGs活動への応援を兼ねた支援メニューということで、楽しいコラボが始まりました。寄付されたお米はフードバンク活動で大いに活用されます。



▲お米の贈呈式の様子

▲贈呈されたお米は食料庫へ

甘南備さん「つぶやき」を自費出版!!

本会の副理事長の甘南備かほる氏がこの度「つぶやき」という本を発刊しました。B6版320ページ爽やかな表紙で、文字も大きく読みやすいと評判です。

市役所を定年退職後すぐピープルの事務局を引き受けこの間本会が発行する会報「ザ・ピープル」の編集に当たり、紙面の一角に「つぶやき」を書き続けてこられました。60編を越えたこと。年齢も現在79歳。80歳を目前に一つの区切りを付けたいと決心されたとのことです。いわき総合図書館を始め地区の図書館及び移動図書館の新作図書コーナーに備えつけてあります。興味のある方は事務局にお問い合わせください。



▲「つぶやき」本の表紙と裏表紙

私たちの活動を会員として支えて下さい。
会費納入をよろしくお願い致します。

活動会費 (実際に活動に参加される方と、会報購読という形で支援して下さいの方) 2,000円/年
賛助会員 (資金的な面から支えて下さる方と法人・団体会員) 10,000円/年

郵便振替 (02110-0-24908) でお送り下さい。

おちちち「うさぎを笑う」
笑いがもたらす健康効果として細胞が活性化されるというから凄いことだと思ふ。一日中ニコリともしない人。何かにつけよく笑っている人。様々だがいずれにしても一日一度は思い切り笑うことは健康にいい苦▼現役30代とき異動した職場は電話が鳴り通し。専門用語が飛びかき不安で電話に出るのが怖かった。そのうちやはり傑作ともいえる事件を起こしてしまつた。「こちら老人福祉施設のキレソウですが。こちら度聞きなおしても「キレソウ」と聞こえる。その部分だけが気になつて、え〜キレソウなんですか?。私の頭の中では公衆電話からかけていて料金が不足し、今も電話が切れそうなのだという光景が浮かんだ。「こちらから掛けなおしましょうか」と焦る私の態度に気づいたらしく笑い出している。漸くわたしも気づいて一足遅れて笑いだし「失礼いたしました」で一件着落となった。そのことは数年間忘れていたのに、仕事で市内を車で走り回っている「老人福祉施設電齡荘」と書かれた立派な車両を見かける。その度にあの日のことを思い出して笑つてしまふ▼もう一つ。大震災後、集合住宅の集会所に千葉県の腹話術師夏目銀之助さんが可愛いおちちちゃんを抱えて現れた。司会役なので緊張してお手伝いしていた。様々な演技で会場の皆さんを笑わせたあと、果物が入っている箱を手渡された。「かおるちゃんさん名前も当てて下さい。さあ甘南備さん取り出してみて下さい。私は慎重にレモン、バナナ、キウイと取り出して行った。間違ひなく当てる。この時点で私の頭の中は、銀之助さんとかおちちちゃんは何か打合せをしているのではないかと変な疑いを持つてしまった。演技が終わるや銀之助さんに疑問を直接ぶつけた。「どうしてかおるちゃんやば間違ひに当てたんですか?。貴女は面白い方だね、喋っているのはボクなんです。その時の私の驚き。恥ずかしさを越えて思いつき笑いだしてしまつた。▼なぜ私はこうもおちちちゃんなのかしらと立ちたい思い。頭が単純構造なのかしら。単純だからこうして笑えるのかも。でも心が健康ならいいかと呟いた私。(甘)